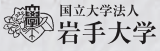




岩手大学教職大学院



# NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600  
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



「教育実践研究の成果」更新して公開中  
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報  
オンラインISSN 2432-924X

第3巻 (特集論文8編、論文13編、計21編を収録)

岩手の教育課題に関する論文の特集を  
常設しました!

- 小岩和彦・田代高章・森本晋也・藤岡宏章・藤森崇浩・町畑光明・浅沼美里・岡本優・川戸遥・小笠原恵・三井寺健司・小原俊介・関川健生・菅原真紀(2019): 岩手の教育課題に応じた小中一貫教育のモデルカリキュラム開発(その1) 一語及び算数・数学について
- 鈴木久米男・菊地一章・遠藤孝夫・小野寺正彦・多田英史・小岩和彦・高橋和夫・森本晋也・佐藤理(2019): 指導主事の職務及び研修意識の実態把握による資質向上の手がかりー A県指導主事への調査の結果を踏まえてー 他19編

## 日々の教職大学院での学び

教職大学院の教育課程は、教育に関わる実践的力量を磨き高めようとするものです。本号では講義を通じて理論を求め、実践を通じて実践知を求め、両者を往還しまとめ上げた教育実践研究の成果を発信する院生の姿をお伝えいたします。

### 講義「教科教育の実践と課題」を受講して

[学卒院生(M1)] 菅原 真紀

教職大学院に入学してから、早くも1年が経とうとしています。私が入学して良かったと思う理由の一つに、講義での学びがあります。特に、教科専門の講義では、学部時代にはあまり深く追求できなかった教科の本質や、授業作りの新たな視点を得ることができ、現場に通じる学びができています。M2でも引き続き、「広く、深く」学んでいきたいです。

### 講義「通常学級における特別支援教育の実践と課題」を受講して

[現職院生(M1)] 小笠原 恵

特別な支援を必要とする児童生徒に対して教科指導及び生徒指導を行う上での留意点や、社会生活力を高められるための支援のあり方などについて学ぶことができました。講義で学んだことから自分自身の教育実践を振り返ってみることで、新たな知見を得ることにつながっています。一人ひとりの子ども達に対して適切な支援を行っていくことができるよう、今後の学びを深めていきたいと思っています。

融合。実践の理論と

## 平成30年度教育実践研究発表会・交流会開催

平成31年1月25日

2年間の集大成、教育実践研究報告書の発表会を開催しました。また、第1期修了生である辻裕美香さん(盛岡市立仙北小学校教諭)、黒坂優さん(宮古市立崎山中学校教諭)、坪谷有也さん(岩手県立盛岡みたく支援学校教諭)による実践報告をいただきました。充実の交流会となりました。ご参会いただいた皆様に感謝申し上げます。

### 教育実践研究発表会の発表を通して [現職院生(M2)] 千葉 邦彦

教育実践研究発表会においては、「理論と実践の融合」をテーマにして、自身が2年間取り組んできた中学校社会科における「法教育」の研究の成果を発表させていただきました。岩手県の社会科教育に少しでも還元していけるように、発表後にいただいた貴重なご意見を生かしながら、さらに研究を深めていきたいと思っています。



### 教育実践研究発表会の発表を通して [学卒院生(M2)] 石川 高揮

教育実践研究発表会では、2年間の学びの成果を発表時間の15分という時間にまとめることで研究を見つめ直すことができました。また、初めて自分の話を聞く人にも分かるように発表を構想することが非常にためになるものでした。発表して終わりではなく様々な先生方から意見を貰うことで、現場に出てからの意欲につながる場とすることができました。



## 平成30年(第62回)度岩手県教育研究発表会開催

平成31年2月7-8日

「岩手県の教育課題を解決するために、県内各学校・園及び教育関係機関、岩手県立総合教育センターにおける実践研究の成果を広く教育関係者に公開し、その理解と普及を図り、もって本県の教育の向上に資する」ことを目指して開催される岩手県教育研究発表会。これに私たち教職大学院も参加させていただいています。学卒院生はポスター発表、現職院生は、分科会での口頭発表をしました。

### 岩手県教育研究発表会でのポスター発表を通して [学卒院生(M2)] 千葉 大貴

岩手県教育研究発表会に学卒院生はポスター発表者として参加しました。2年間の集大成を発表するのはもちろん、県内外の様々な先生方から質問や助言をいただきました。来年度から初任者となる私にとっても、大変勉強となる有意義な時間になりました。4月からは、研究を自身の授業に生かしていくことで、子ども達の学力向上に励んで参ります。



### 岩手県教育研究発表会に参加して [現職院生(M2)] 濱田 成樹

岩手県教育研究発表会を通して、多くの先生方に2年間の研究の成果を紹介することができました。貴重な機会を設けて頂いたことに大変感謝しています。実践を通して、道徳科の評価には子どもの可能性を引き出したり、成長を支えたりする側面があることを実感しました。今後は、2年間の学びを岩手の教育に還元できるよう努めていきたいと思っています。



## 教育学研究科教員挨拶

実務家教員 小野寺正彦

(平成31年3月退職)

昨年度3月に第1期生の皆さんを送り出し、教職大学院から教育現場までの一連の流れが出来上がり、初期の成果が見え始めた平成30年度となりました。

1月25日に行われた第2期生の皆さんの教育実践研究発表会には交流会がセットされ、第1期生の代表の方々の教育現場の実践報告も行われました。学校経営の一員として力を発揮したり学級経営で奮闘したりしている報告内容は、真に教職大学院での学修を生かしたものでした。目を輝かせて聴き入っていた第2・3期生の皆さんの表情から、早く教育現場で実践してみたいという勢いを感じ、頼もしいと思いました。

第2期生を送り出し4月からは第4期生を迎えます。教職大学院としての歴史を築きながら、日々の学修の積み重ねを大切に過ごしていただきたいと思っています。

